

献 辞

成生達彦教授は、2017年6月に65歳の誕生日を迎えられ、2018年3月31日をもって、本学を退職されることになりました。

成生教授は、1971年に私立麻布学園高等学校を卒業後、横浜国立大学経済学部に進学され、1976年に同大学院経済学研究科修士課程、1978年には京都大学大学院経済学研究科博士課程に進まれました。その後は、1981年より、南山大学経営学部において、助手・講師・助教授を経て、1994年より1998年まで、同学部の教授を務められました。この間、1985年から1989年には、ノースカロライナ州立大学人文社会科学研究科に留学され、Ph.D.を取得されました。また、1994年には、京都大学博士（経済学）の学位も授与されております。1998年4月には、本学経済学研究科の教授に着任され、また2006年より本学経営管理研究部教授として、これまで長きにわたって本学における教育・研究に尽力されてきました。

成生教授は、1980年代初頭より、ミクロ経済理論に依拠しつつ、マーケティング・流通現象を分析してこられました。我が国におけるこの分野のパイオニアであると同時に、長きにわたり第一人者として活躍してこられました。中でも、1994年に刊行された、『流通の経済理論』（日本商業学会優秀賞、日本経営協会経営科学文献賞を受賞）は、流通の経済学分野における、最も重要な文献の一つとして、現在まで読み継がれています。

成生教授の研究成果としては、流通経路構造に関する様々な実証研究を行い、日本の流通システムの効率性を明らかにしたこと、さらには、流通チャネルの効率的運営について理論的に検証し、返品制などの流通慣行、あるいは様々な垂直的取引制限行為の経済学的意義を、ミクロ経済学やゲーム理論を駆使して立証したことが挙げられます。前者の研究においては、「情報を持つ経済主体がそれを利益に変換する目的で流通過程に参加するために、流通経路が長くなる」という仮説について、パネルデータを用いて実証的に証明され、この業績によって、日本商業学会優秀論文賞を受賞されました。また後者の研究では、返品制のメカニズムを、初めて経済合理的に説明され、さらにはチャネルの効率的な運営のために、生産者が小売業者の行動に制限を加える行動が、実は経済活動を効率化する可能性を示されました。また近年には、チャネル間競争の経済分析に注力してこられました。この研究において、生産者と小売業者の取引に関して、前者が出荷価格を提示し（価格が戦略変数）、後者が注文量を返す（数量が戦略変数）という、価格—数量競争のモデルを用いて、経済学の観点からフランチャイズ制の意義を証明するなど、多くの成果を発表されました。これらの研究成果は、2015年に刊行された、『チャネル間競争の経済理論』（日本応用経済学会著作賞を受賞）にまとめられることとなりました。また最近では、インターネットの普及により激増した電子商取引に関して、多くの論文を発表しておられます。これまでの業績を合計すると、学会で評価の高い国際学術誌等に掲載された査読付き論文は、80編を超えます。成生教授は、まさに現在においてもなお、流通経済学研究の第一線で活躍されておられます。

こうした業績を背景に、学会においても重職を担ってこられ、日本商業学会では、理事・代表理事、監事を歴任され、日本経済学会では理事をお勤めになられました。また、日本応用経済学会では、2012年より副会長、2016年から現在まで会長として、学会の発展に貢献されてきました。

成生教授は、経済学の教育においても、1997年には、学部上級から大学院向けのテキストとして、『現代のミクロ経済学 情報とゲームの応用ミクロ』（丸山雅祥教授との共著）を刊行され、また2004年には、初学者向けのテキスト『ミクロ経済学入門』を著されるなど、大きな貢献をなされてきました。特に前者は、ゲーム理論や戦略的行動に焦点を当てて、市場構造や企業行動を解説するという、ミクロ経済学のテキストとして画期的なスタイルの教科書でした。これらのテキストは現在においても、初学者から研究者を志望する学生まで、ミクロ経済学を学ぶ幅広い読者に読まれ続けています。

以上のように、先生は、長年、研究や教育活動に精力的に従事されてきましたが、それと同時に後進の育成にも力を注がれ、多くの研究者を世に送り出されています。

また先生は、京都大学において数々の要職を歴任され、経済学研究科では、評議員、副研究科長を、経営管理研究部では研究部長を務められており、本学の発展に尽くされてきました。

京都大学経済学会は、先生の多年にわたるご功績への敬意と学恩に対する感謝の気持ちを込めて、『経済論叢』の本号を記念号として編集いたしました。先生のご指導を受けた方々や所縁のある方々から寄せられた論文を編んで、本号を先生に捧げることができますことは、私どものこの上ない喜びであります。

先生が、今後とも、ますますご健康で、学界のため、また広く社会のためにご活躍なされますことを心からお祈りいたします。

2018年7月

京都大学経済学研究科長 文 世一